

B ☆個別の教育支援計画（例） ～継続・変更記入型～

氏名	作成開始日		
担任	1年	2年	3年
	4年	5年	6年
障がい名等			
諸検査等の記録	実施学年	検査日	結果等
	年		
	年		
	年		

学年ごとに、情報として変わらないことがあります。継続的な支援について、一目で見ることができます。

●本人及び保護者の意向や将来の希望、配慮等の申し出

本人や保護者に聞き取って記述します。アンケート等で把握した場合は、「アンケートによる」などの記述をして、**何度も転記しない!**というのも工夫の一つです。

●本人の抱えている学習上又は生活上の困難さ

- ①見えにくさ ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制約
- ⑤健康面や安全面での制約 ⑥発音のしにくさ ⑦心理的な不安定
- ⑧人間関係形成の困難さ ⑨読み書きや計算等の困難さ
- ⑩注意の集中を持続することの困難さ
- (他) 記憶することの苦手さ 自由に表現していく困難
- その他

収集した情報から、本人の今（抱えている困難さ等）と将来を考え、どのような支援が必要で、可能であるか、支援目標を立てるまでの理由を記述する。引き継ぎの際にプロセスが分かり伝わりやすくなります。

小・中学校、高等学校学習指導要領解説（各教科等）上に記載*¹している障がい等による学習上の困難さを基にしており、本人が抱えている困難さの状態を考える視点として活用します。チェック式なので、見やすく、文章よりも本人が抱えている困難さを素早く情報共有できます。

（支援目標設定の理由）

支援目標（支援・指導）

本人・保護者、関係機関と支援目標を設定していきます。
 ①必要な支援 ②困難さを改善するために適切な指導
 を明確にすることで、一貫した支援、指導につながっていきます。

●各連携機関の支援内容等の継続状況

機関名	学年 (いつから～いつまで)	各連携機関の支援内容等
支援目標に対して、各機関が取り組んでいる支援内容を記載します。		

学年を超えて継続的に使っていくことから、必要に応じて加除修正をしていきます。*加除修正では、見え消し（例：見え消し）や朱書き等、変更が分かるようにすると便利です。



* 1：小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説の各教科等に示されている、学習活動を行う場合に生じる困難さを基にしています。

～支援内容・方法（個別に必要とする合理的配慮等）～

教育内容 ・ 方法	支援開始 学年～	学習・生活上の支援内容 及び 必要な変更調整
		<p>合理的配慮*²の3観点11項目の3観点での項目です。支援内容については、本人を取り巻く基礎的環境整備等が変化したり、本人の障がいによる困難さが指導を受けたことによって改善したりすることがあるので、必要に応じた柔軟な見直しが必要です。</p> <p>*個別に必要とする支援内容ですので、たくさん書く（記述して埋める）必要はありません。</p>
支援 体制	支援開始 学年～	必要な連携（校長、教頭、担任、養護教諭、SC、SSW、医療機関他）
施設 設備	支援開始 学年～	必要な環境設定（学校、教室等）
		<p>支援開始の学年が分かることで、支援内容の継続性を確保、見直し、改善が図られやすくなります。</p>

上記の内容を確認しました。

●児童生徒名・保護者確認欄

年月日	氏名	保護者名	年月日	氏名	保護者名

なお、本人の障がいによる学習上又は生活上の困難さの状況等の変化に応じて、年度途中でも柔軟に見直す場合もあります。

個別に必要とされる合理的配慮を確実に実施、引き継ぐためには、医療等との連携が不可欠です。本人にとって必要な合理的配慮について、医療等からの意見は、個別の教育支援計画の支援内容の設定の根拠となる資料になります。ファイルと一緒に綴じておくと便利です。



* 2 : 合理的配慮に関しては、第Ⅲ章 2 「合理的配慮の提供にあたって」をご覧ください。